

# 大学における看護実践能力の育成の充実に向けて

## 看護を取り巻く情勢

地域医療への看護職の責任の拡大  
医療の質の向上への期待  
保健・医療・福祉従事者の多様化  
患者の権利意識の高まり  
継続的な質の向上の必要性

看護系大学への期待

## 看護人材の育成目標

倫理的感性に富んだ人間性の涵養  
生命の尊厳・人権の尊重を基本とする権利擁護能力の育成  
援助的人間関係形成能力、専門的知識に基づいた判断力の育成  
対象者の自立と自己表現を支えるための創造力の育成  
チームワーク・マネジメント能力の育成

## 臨地実習の改革

問題点：  
・学生の看護実践能力の到達度が不明  
・臨地実習の責任と指導体制づくりが不十分  
対応：  
・「知る」「わかる」から  
「使う」「実践できる」へ  
・各科目の単位認定から  
学生の総合的・段階的到達度評価へ  
・大学と実習施設の指導体制の基盤づくり

学生の到達度の適正評価  
・実習開始時・終了時の  
習得レベルの確認  
・事前学習の充実  
・卒業時の到達度の確認

臨地実習指導体制の整備  
・技術教育の充実のための  
基本要件  
・学生を含めた共同カン  
ファレンスの充実  
・実践モデル・役割モデルの提示

看護実践能力の育成

## カリキュラム改革

問題点：  
・基本的な看護実践能力の習得が不十分  
・過密なカリキュラム  
対応：  
・看護実践能力育成のための教育内容の  
コアの設定  
・教育内容の精選と各大学の特色ある教育  
・到達目標の明確化

看護実践を支える学習項目の提示

・看護ケア基盤形成の方法 8項目  
<例> 看護の展開方法、療養生活支援の方法、  
成長発達各期の支援方法 等  
・実践力を育成する看護基本技術 13項目  
<例> 環境調整技術、呼吸・循環を整える技術、  
感染予防の技術 等

卒業時の看護実践能力の到達度の設定

看護実践能力の質の保証

## 教育の質の向上と改善

問題点：  
・教育評価の在り方が不透明  
・教員の看護実践能力の低下  
対応：  
・組織としての教育能力の向上と  
教員個々の資質の向上  
・大学の基盤づくりの活動と  
人材育成目標の点検評価  
・教育の質改善を恒常的に図るシステム的ア  
プローチ

<システム化>

教員・教育  
組織の能力開  
発

臨地実習の  
計画・実施・  
評価・改善の  
過程評価

P D C A \*サイ  
クルによる教育の  
質向上のためのマ  
ネジメントシステ  
ムの整備

\* Plan / Do / Check / Action

教育の質の恒常的改善

看護実践能力の質の継続的な向上

人間存在への深い理解 / 生命の尊厳・人権の尊重 / チームワーク・マネジメント能力

社会の期待への対応：質の高い看護